



〒247-0055 神奈川県鎌倉市小袋谷 2-2-39 ハーベストムーン 105号室  
TEL. FAX: 0467-45-7430  
E-mail lgjmakura@nifty.com  
<http://www.lovegreenjapan.org/>

発行者 相川 政夫 編集責任者 鈴木 倫子

## JICA 支援による コロナウイルス (COVID-19) 対策事業開始

パンチカール市 現場からのレポート

2020年、世界各国では新型コロナウイルスの感染者が増加しています。ネパールにおいても5月ごろから陽性者の数が急増しました。JICA 草の根技術協力事業が2017年11月6日に開始



パンチカール市 現地事務所におけるスタッフ、現地フィールドスタッフによる会議

されて順調な活動が続いている中、本事業関係地でも予測不能な問題が起きています。当会カウンターパートであるラブグリーンネパール (LGN) のスタッフたちは事業に支障を少なくすべく、現場の声を聴き、希望をもって、コミュニケーションをとり、各自その対応に追われています。当会の支援事業はカブレ郡パンチカール市において、2022年10月下旬まで残り約2年間にわたり実施されます。そうした状況の中、JICAより新型コロナに対応すべき追加支援の話があり、当会として提案に賛同、2年間の追加支援事業が2020年10月上旬から開始されます。

■ **新型コロナウイルス対応 JICA 支援事業** <2020年10月上旬～2022年10月下旬>  
 JICAの新型コロナウイルス対応追加支援において、当会事業地パンチカール市では今後発生する諸問題を調査、検討した結果、市内に滞在を余儀なくされるであろう海外出稼ぎ帰還者及び渡航予定者、就職困難な若者が多くいることが顕著となってきました。そこで、将来に向けて家族と共に郷里に生活できる環境づくりを支援する事業について現地からの報告を受け話し合意をしました。

**\*\* 活動内容 \*\***

パンチカール市内でも新型コロナの悪影響はじわじわと押し寄せ、農業生産物（収穫野菜）の価格の暴落、種苗の入手が難しくなっています。将来への不安もささやかれているのが現状であり、住民への支援内容は以下のごとく計画決定されました。

<追加活動支援額 18,384,000 円>

**1) 若年層農家、海外からの出稼ぎ帰国者および予定者を対象とした農業による能力向上研修**

野菜や果樹の栽培研修やマーケットを意識した農業生産研修など各種技術研修の実施や専門技術者による巡回指導により農業技術を身につけます。新規就農者には、すぐに農業が始められるように種苗、果樹の苗木やため池作りのためのビニールシート等の配布を予定しています。またコロナ禍で種苗の入手が困難になったことを踏まえ、地元の固定種を保存する活動も計画しています。また新しい品種を試したり、市場の需要を反映した野菜作りを目的とした試験栽培用のビニールハウスなども設置する予定です。

改良家畜小屋の設置やミルクの管理や質を向上させるための活動も計画されています。

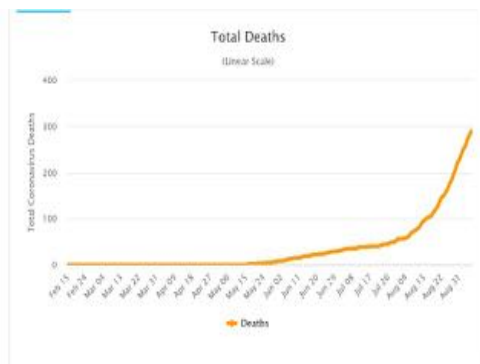
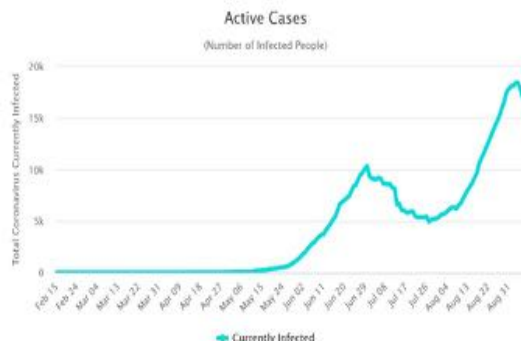
**2) 換金作物の市場調査 マーケティングに関する実践的な研修**

若年層にとって収入を得られる農業となるように、市場を意識した野菜作りをするためのマーケティングを実施します。パンチカール市における農産物市場に関わるオンラインリサーチやカトマンズのレストランやその他市場への聞き取りなどを予定しています。

■ **ネパールにおける新型コロナウイルスの感染状況 現地からの報告**

2020年9月16日現在

ネパールでの COVID 19 最初の症例は、2020年1月23日に武漢からカトマンズに戻った31歳の学生で確認されました。5月14日に最初の死者が出ました。感染症の症例は55,329人に達し、9月16日までの総死者は360人です。



ネパール政府は2020年3月24日から全国的な国内封鎖を決定しました。それは7月21日まで延長され、のちに首都で封鎖を緩和した後、感染率は増加しました。そのため、地方政府はカトマンズ盆地で、8月19日から外出禁止命令を再び発令しました。こうした全国的な封鎖と外出禁止令により、観光（トレッキング）、輸送、貿易などは深刻な影響を受け、大きな経済的損失を抱えています。毎年40万人が海外へ出稼ぎに出ている人々が失業し、今年度の送金の減少幅は15～20%になる可能性が高くなっています。農業部門でさえ大きな損失に直面しています。ホテルの閉鎖やパーティーの開催制限により、新鮮な野菜や乳製品の需要は少なくなっています。その上、農民は種子、肥料、農薬など、ほとんどが外国から輸入されている農業資材の不足に直面しています。UNDPの「ネパールにおけるCOVID 19の社会経済的影響の迅速な評価」調査では、5人に3人の従業員が零細企業および中小企業で職を失ったと述べ、全労働者31.5%が失業しています。また、8.5%あったCOVID-19より前のGDP成長率は2.5%をはるかに下回ると予測しています。

### 助成金を受けての新事業紹介

2020年度の新事業として、3つのプロジェクトが開始しました。コロナ禍で移動制限などもある中、予定通りとはいかないものの、活動が進められています。それは、新事業の対象地であるカブレ郡パンチカール市とマクワンプル郡タハ市とはラブグリーンが継続した関わりを持ち続けてきており、土地柄を理解していること、住民との間にある程度の信頼関係を築いてきているからこそ、できたことと感じています。

#### ■ **地球環境基金** — 独立行政法人 環境再生保全機構

事業名：タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる活動（マクワンプル郡）  
配分金額 220万円

ネパール国内では都市化の影響を受け、ごみの不法投棄による汚染は始まっています。プラスチックゴミは単純に集めて埋め立てればよいというものではありません。本事業の対象地は、それほど汚染はさしていませんが、今が大事な時機と捉えています。子どもや若者における環境保全への教育、川の浄化活動など、毎月の清掃活動を継続実施し、地域住民を巻き込んだ意識の改革を目指すことが有効と考えています。事業では地域の汚染に関わるビデオ教材を作成したり、身近な地域の問題として環境保全を学ぶことが求められています。河川への



汚水の垂れ流し対策としてはバイオガス装置を併設したトイレを設置します。汚物からメタンガスを発生させて、燃料としての有効利用に繋がります。清掃作業など参加者の確保をいかに継続させるかが課題ですが、地元のグループ同士連携して、多くの人を巻き込むように取り組んでいます。



## ■ ゆうちょ財団

事業名：パンチカール市 第一地区 低所得農家 30 世帯への家畜飼育支援による生計向上  
配分金額 100 万円

30 世帯の家畜は野ざらしに近い状況にあり、改良家畜小屋（餌場）の設置をします。同時に家畜飼育管理研修、糞尿を活用しての有機肥料作り研修など、衛生的な飼育環境を整備してミルクの品質と生産量を上げていきます。また、予防接種や寄生虫検査など、対象世帯以外の農家も参加できるようにして、地域一帯でリスクの高い畜産飼育に対応できるよう病気の予防にも取り組んでいます。



## ■ 緑の募金 - 公益社団法人 国土緑化推進機構

事業名：パンチカール市 女性グループを中心とした植林と環境保全活動（カブレ郡）

配分金額 1532 千円

パンチカール市第 2、3、4 地区女性たちで活動するセティ・デビ女性農家グループが中心となって地域の共有林地区、土砂崩落地域、学校周辺部などに、市行政と協議して植林を実施します。また将来の環境を守るため、小中学校の生徒たちと植林した苗木の管理・育成、地域における環境教育を実施します。

## 継続した地域への関わりの中で

## ■ パンチカール市への農薬削減策の提案

土壤生態学、森林科学 福島大学 教授 金子信博

2019 年 11 月、金子教授には土壤の調査を通じてパンチカールの農業へのアドバイスを頂きました。毎年、現地を訪問していますが、今回はパンチカール市の市長に面談して、土壤の定点観測や農民の持参した土の検査、土壤調査のシステム作りの重要性や将来に向けての農業として不耕起栽培について説明する機会がありました。学生たちも同行して、研究を現場で活かすことを学んでいます。こうした研究資料はネパール農業にとっても貴重な財産となるでしょう！



## 文京学院大学 スタディツアー



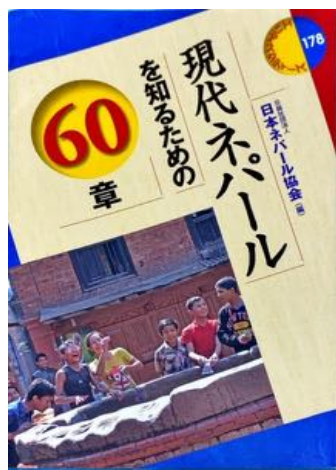
や鶏が平然と横切ったり、大量の飼葉を背負って歩く女性に遭遇したり、農家の日常生活に学生は驚いていました。

奨学金を得て学校に通う女子学生と交流の機会もありました。多くの女子学生が集まってくれたので、日本人1人が10人くらいの女子学生に囲まれていましたが、スマホの写真を見たりTikTokの動画を見たりと若者同士で楽しく交流できたようです。10日間のネパール滞在を終えた学生は「どんな状況でも何とかなる」と少し逞しくなったようです。ラブグリーンスタッフの皆様には大変お世話になりました。

文京学院大学外国語学部 教員 甲斐田きよみ



## 本の紹介



2020年5月20日 明石書店 より  
〈現代ネパールを知るための60章〉 日本ネパール協会(編)  
定価: 本体 2,000円 + 税 が出版されました。  
開発・農業・インフラ 21章 地域農業開発

### \*住民目線で継続した協働支援\*

当会がネパールの村で実施する事業を通じて、NGO活動の海外におけるあるべき活動について報告、説明しています。理事長相川政夫がその分野を担当して執筆しました。

最新のネパール事情など各専門家を通じて、ご理解ください。

\*\*\*\* 将来に向けて \*\*\*\*



**ビナイ・サンガット (G・K・サンガット氏の次男)**

ネパールから日本に来て、もう6年になりました。この6年間環境、自然と土壌生態系のことを横浜国立大学：金子信博教授のもとで研究してきました。自分が日本に来て目標にしていた博士課程も成し遂げることができました。今まで研究や実験の世界だったのでこれからは実質的に どうすれば自分がわかっていることを世界の皆さんのため役に立つということをやってみたいと思って、食に係る職場に入りました。まだわからないことが多く、知識や勉強はいつまでもおわらないこと、それはいいことだ

と思っています。人間として課題が見えて活動が出来ることは重要だと思っています。

今は実際に自分で農業をやり始め、日本中の農家さんを周り、自分なりに困っていることを聞いてどう解決するべきかということ考えたり、色々勉強させて頂いています。将来をネパールや世界の小規模農家など、困っている農家さんの役に立つことが出来るように今農業をしながら頑張っています。

\*\* 若者たちに期待を託して \*\*

**ビナイ君** よく頑張ったね。6年前に単身で日本に乗り込んできたあなたは私の事務所で寝泊まりすることから外国での生活を始めました。日本語中心の生活、インターンとして大学に通い始めて次なるステップに挑戦、大学院時代は金子教授の土壌調査に同行してネパール訪問の機会も何度かありました。博士課程1年の時にあなたは父親との惜別も経験しました。

サンガット氏はラブグリーンの活動を通じて、ネパールの未来像を描いていました。あなたにはネパールに戻って、父親の思いを将来に向かって実現してほしいですね。

**ワージェニンゲン大学 (オランダ) 有機農業学修士課程**

**中杉淳也**



私は中央大学生時代のインターンでラブグリーンジャパンのIPM (総合的病害虫管理) をはじめとする持続可能な農業を学び、現在はオランダの大学院で有機農業学を学んでいます。現在、地球環境、作り手、消費者が共に繁栄できるような新たな食糧生産の仕組みが途上国、先進国を問わず必要とされています。そして今般の新型コロナウイルスの流行に伴いこの流れは世界的に加速したように思われます。外食するよりも家庭での食事の機会が増え、料理を通して自分が食べる食材により注意が向けられるようになりました。農家からは安全な食材を求める消費者との直接の

つながりが増えたという声も聞かれます。ポストコロナの時代は有機農業の時代となるかもしれません。現段階ではネパールでも感染が広まっているようですが、ラブグリーンジャパン・ネパール関係者の皆様と活動地の住民の安全と一日も早い終息を祈っております。



## 2019年10月～2020年9月の動き

2019年11月18日-11月24日 福島大学 教授 金子 信博氏 パンチカール市土壌調査  
18日-12月6日 相川 政夫 ネパール事務所 駐在  
18日-12月22日 鈴木 倫子 ネパール事務所 駐在  
28日 関西のNGO「虹の会」パンチカールの視察受け入れ

2019年12月17日 ピースウィンズジャパンのプロジェクトサイト シンドウパルチョク郡訪問  
18日 「アジア協会アジア友の会」のパンチカールの視察受け入れ

2020年2月 18-22日 文京学院大学 甲斐田きよみゼミ スタディツアー 受け入れ

2020年4月 地球環境基金の支援による「タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる」環境保全プロジェクトを開始  
ゆうちょ財団支援による「アナイコット 低所得農家への家畜飼育支援による生計向上」プロジェクトを開始  
パンチカール市にコロナウィルス緊急対策としてラブグリーンネパールと共同で食糧支援を実施

2020年5月 <現代ネパールを知るための60章>の初版執筆文 明石書店より発売

2020年7月 緑の募金事業「パンチカール市 女性グループを中心とした植林と環境保全活動」開始

2020年8月 パンチカール市におけるコロナ禍への対応、追加支援について JICA 横浜と活動内容を検討 9月 追加事業として認可を受ける。

例年開催のグローバルフェスタやよこはま国際フェスタ等のイベントは中止されました。今年度後半は、コロナ禍で国内外での移動はほとんどできない状態が続いています。

当会の日常活動についてはフェイスブック <ラブグリーンジャパン> でご覧ください。



### 鈴木倫子 新事務局長から一言

2004年にお手伝いを始めたのをきっかけに、プロジェクトの現地調整員、事務局業務を経てこの度、事務局長に就任しました。業務はこれまで通り変わりませんが、より責任を持って仕事を進めていきたいと思っています。私自身、農村開発やNGOのあり方を学びながら、現場に関わる面白さを伝えて、多くの人々に関心を持ってもらえればと思っています。みなさまからのご指導、ご協力よろしくお願ひします。

## 令和元年度 会費納入・募金ありがとうございました。

(2019年10月1日～2020年9月30日)

竹田總一郎 飯田よし江 太田輝 三井良子 土岐操 望月よし江 中澤やす子 中沢千恵子・庸眞  
内田ふき野 和泉田初代 三田健一・悦子 長谷川潤 山下雅人 大石正子 海老澤健 本間ピアノ  
大堀研 鍵谷修 坂本洋子 宮原靖代 高柳紘子 鈴木勝雄・芳子 鈴木開・統真 中澤正子 田岡  
耕司 中村愛 仁科博道 隅田一明 碓賢治 崎坂香屋子 吉井万里子 草野明子  
ナカザワ包材(株) 宮内孝久 石原仁事務所 坂本 鶴田厚子 飯嶋恭子 財満忠世 奥津良博  
奥津良博 蛸名 柴一郎 調布むらさきロータリークラブより(阿部秀樹・渡辺智) 相川記子  
平林繁 成瀬章 山林オサム 甲斐田きよみ 睦好絵美子・正治 小野文子 倉科和子 川戸直紀  
北沢志郎・綾子 他：匿名希望の方 御礼申し上げます。(敬称略)

**昨年度は会費納入をお忘れの方** がいらっしゃいました。**年に一度の会報**でお知らせしております。

**どうぞ、引き続いてのご支援をよろしく願いいたします。**

**皆様のご支援によって、私たちの活動は継続されていきます。**

1口 5,000円 1口 以上をお願いいたします。

ご住所、お名前、電話番号、口数を記入して下記へお振込みください。

振込先 (郵便振替) 00250-3-76570

(銀行振込) 三井住友銀行 日比谷支店 普通 8044951

特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

尚 ご意見やご感想なども事務局へ どしどしお送りください。

## 編集後記

### コロナ禍に マスク・点滴 ステージ4 旅に回想 コトブキノチ

今年は新型コロナ対応の話は避けて通れない。移動の制限、マスクの着用と身近な景色も変わってしまった。世界で3,000万人を超える感染者数、100万人に迫る死者数は途上国で増えている。顔が見えてこない人の数字に何を見出せばよいのでしょうか。私たちが取り組んでいる開発事業のことは、行動が沈静化する日本で注目されることがあるかもしれない。そこで、何を求められるのが好ましい世界であるのか、自らが考え、体感して、共有して、生きていくことに希望が繋がって欲しい！—と思う！今は事業を通じて、そこで働く仲間たちの顔、住民の表情はインターネットで届いている。ネット画面ではなく時間を忘れて放浪していたときには、そこに吹く風があり、道をひたすら歩き、腹を満たして出会う人たち、そこにはいつも笑顔があった。このごろ寝込み時に、旅の回想が私の内部に蘇る。残された寿命(コトブキノチ)の時間軸において、関係する村の方々に私の笑顔、そして行いは残っていくだろうか！

ファイト！

Ai